

目的の評価

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
学内行事委員会

本資料は、学園祭実行計画書運営要領「I.概要 B.目的」において定めた目的をもとに、第50回筑波大学学園祭の総合的な評価を行うものである。アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照されたい。

1 第50回筑波大学学園祭「雙峰祭」目的

学術、文化ともに多様性をもつ筑波大学において、学生ひとりひとりや様々な団体の魅力を内外に発信する機会を設け、50回にわたる雙峰祭で受け継がれてきた伝統や文化の価値を再認識するとともに、つくばのこれから未来を「そうぞう」する場とする。

この目的が達成されたかを、学園祭実行計画書の運営要領「II.詳細 A.委員長団」に記載があるように参加者アンケートの結果などの資料を参考にしつつ評価し、最後に第50回筑波大学学園祭の総合的な評価を行う。

※アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照

2 項目ごとの評価

2.1 「学生ひとりひとりやさまざまな団体の魅力を内外に発信する機会を設ける」

今年度は、参加企画数も昨年度より増加し、飲食企画、学術企画、フリーマーケット、ステージ企画など多種多様な企画を通して各個人・団体の魅力を発信する機会が設けられていた。参加者アンケートでは、筑波大学やつくばの魅力を感じることができたかという質問に対して5段階評価のうち、そう思うに近い2段階を選択した参加者の割合は80%にものぼった。また具体的に「企画のバリエーションの広さ、企画団体の個性が出ている企画」に魅力を感じたという声も寄せられていた。したがって、学生ひとりひとりやさまざまな団体の魅力を内外に発信する機会を設けるという目標は達成できたと考えられる。

2.2 「50回にわたる雙峰祭で受け継がれてきた伝統や文化の価値を再認識する」

今年度の雙峰祭では、昨年度に引き続きコロナ禍前に行われていた委員会企画を実施するとともに、学園祭実行委員会の委員会企画において雙峰祭50年間の流れをまとめた展示がなされた。これにより、伝統・文化を受け継ぐと同時にその歴史にも思いを馳せ、価値を感じる機会がもたらされたと考えられる。したがって、50回にわたる雙峰祭で受け継がれてきた伝統や文化の価値を再認識するという目標は達成できたと考えられる。

2.3 「つくばのこれからの未来を『そうぞう』する場とする」

今年度はつくばイチ受けたい授業における本学及びつくば市内の研究者の講演に加え、雙峰祭 50 周年企画の一環としてつくば市コラボ企画が実施され、例年と比べてつくばの魅力を発信する場が多く設けられていた。つくばという土地の魅力を知ることにより、また 2.2 でも述べられたように雙峰祭の伝統や文化の価値を再認識することにより、過去と現在を合わせて未来を想像することができたのではないかと思われる。さらに雙峰祭を作り上げることを通して得た筑波大生の成長はつくばの未来を創造することにつながるだろう。したがって、つくばのこれからの未来を『そうぞう』する場とするという目標は達成できたと考えられる。

3 まとめ

今回の雙峰祭は 50 周年を記念するものであり、さまざまな企画において規模の拡大が見られたが、概ね滞りなく運営されたものと評価できる。また、来場者アンケートからは学生の生き生きとした姿を見ることができたことがうかがわれ、来場者からの評価も高かったと言える。他方、公式パンフレットやホームページの内容の一部改善や、周知に関する改善の要望が寄せられた。また、昨年度に引き続き TSUKUBA COLLECTION に関して、多様性に配慮していたと感じる人が過半数を超える一方で、多様性への配慮の方式の再検討を提案する意見もあった。これらをもとに、次年度以降より一層素晴らしい学園祭が運営されることを期待する。